

対象年度令和5年度

学校自己評価

令和6年11月30日

学校法人 三橋学園
船橋情報ビジネス専門学校

当本資料について

当資料は船橋情報ビジネス専門学校による令和5年度の学校自己評価を行った結果の報告です。本校は以下の3点を目的とし、本校内部の役員、教職員により、教育活動等の成果や運営に関して学校自己評価を行っています。

- ①学校運営の組織的・継続的な改善を図る
- ②各学校が保護者や地域住民等に対し、適切に説明責任を果たし、その理解と協力を得る
- ③学校に対する支援や条件整備等の充実につなげる

また、本校が学校自己評価を行なうに当たっては文部科学省生涯学習政策局が平成25年3月に公開した『専修学校における学校評価ガイドライン』に従って実施し、その結果である本資料を本校のホームページにて公開します。

目 次

1. 学校の教育目標	4
2. 本年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画	4
3. 評価項目毎の評価	5
3.1. 教育理念・目標	5
3.2 学校運営	6
3.3 教育活動	7
3.4 学修成果	8
3.5. 学生支援	9
3.6. 教育環境	10
3.7. 学生の受入れ募集	10
3.8. 財務	11
3.9. 法令等の遵守	11
3.10. 社会貢献・地域貢献	12
4.学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果	12

1. 学校の教育目標

本校の教育目標は、教育理念である「若者をハッピーに」を具現化することである。究極の目標としては、本校の全学生をハッピーすなわち幸せにするということであるが、その性質上、幸せの定義は個人によって異なり、また数値化し成果や結果を明示することも困難である。そして幸せというものは人から与えられるものではなく、各自の人生の中で自らの努力により実現されるべきものである。

従って本校の掲げる理念を具現化するための現実的な目標は、「職業教育を通じて若者が幸せになるお手伝いをする」ということになる。ただし技術や資格を身につけて就職することは、必要最低条件であるが単なる入り口であり、それからの長い人生において幸せを実現するには、職場や社会の一員として受け入れられ、周囲の人達との協調の中で職業人として成長して行くことが何よりも重要である。

そのような長期的視野に立った本校の教育目標は、職業教育を通じた自己実現を縦糸とし、人間教育による人格・社会性の形成を横糸とする、総合的な職業人教育を若者に提供することであり、その教育活動を通じて彼らの幸せの実現をお手伝いすることである。

2. 本年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

就職や資格取得については安定的に良好な結果を出している。これは「若者をハッピーに」というシンプルな教育理念の下で、その主体である学生とそれを支える教職員が、それぞれの役割を理解し、コロナ禍においてもそれを愚直に実行した成果と言える。リーマン・ショック後の就職危機をきっかけに、担任と就職指導室の徹底した連携体制を再構築し、現在もこれを強固に維持している。資格取得に関しては、経済産業省所管IPA（情報処理推進機構）の実施する検定試験の最高位であるレベル4の合格者を、毎年安定して輩出できる体制が構築されている。

しかし技術力と資格のみで仕事ができる訳では当然なく、そのベースとなる人間性こそが重要なため、技術教育と人間教育が縦糸と横糸のように織り込まれた真の専門教育を今後も追及する。そのためには卒業研究のようなグループ活動を、さらに人間力の学びの場として活用したい。またそのような活動が学内だけで閉じたものにならないよう、毎年内定先の企業もお招きし、実務的な観点からも指導がいただけるような卒業研究発表会を実施している。また著しい進化を見せている生成AI技術については試験的に「生成AIと情報倫理」という科目を設け授業に取り入れている。

ボランティア活動や美化活動にも力を入れており、このような分野で船橋市と包括提携協定を結ぶことを検討している。コロナ収束を受け、学園祭や体育祭など、教室以外での学びの場をより拡充し、技術・資格教育との両輪で高い教育効果を目指した活動を積極的に行いたい。

3. 評価項目毎の評価

3.1. 教育理念・目標

項番	評価項目	評点
1.1	・ 学校の理念・目的・育成人材像は定められているか (専門分野の特性が明確になっているか)	4
1.2	・ 学校における職業教育の特色は何か	4
1.3	・ 社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	4
1.4	・ 学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが学生・保護者等に周知されているか	3
1.5	・ 各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	4

● 課題

開校以来、「若者をハッピーに」というシンプルな理念のもと教育を行ってきた。この理念自体、何をもって達成できたかを数値化するのは困難であるが、錦の御旗としての効果は絶大である。教職員が右か左かで悩む時は、どちらが学生にとってよりハッピーかで判断できるし、意思決定が難しい場合も、この価値基準を拠り所に討議することができる。

理念を実現する主体は学生本人で教職員はその手伝い役であり、長い人生において学生自らが幸せを実現して行くのだという考えなので、教育の目的は学生がそうできる状態にして社会へ送り出すことであり、その絶対必要条件としての人材像については、技術、資格、人格の3つの観点から目標設定している。

この3点については、採用企業側からすれば、ある一定基準を満たさなければ受け入れられないものであるから、希望者が毎年100%就職している実績を鑑みれば、少なくともいただいた学費に見合う結果は出していると判断できる。

この理念はシンプルかつ強力で、頻繁に見直すする必要も無いような普遍性を持っていると自負している。教育や経営はこの理念に向け常に向上しなければならないが、その道筋としての中長期的目標も教職員に浸透するよう、様々な機会に校長自らが伝えるよう心掛けている。学生、保護者、関連業界等にも幅広く周知されているが、その浸透度の評価方法には改善の余地も残されているので、今後はアンケート等を積極活用したい。

そのような一部改善点も残されてはいるが、非常にシンプルかつ強力な理念のもと教職員が一丸となれるのは、本校の最も大きな財産である。以前から企業連携や情報交換は積極的に行われていたが、職業実践専門課程に取り組んで以来、企業や業界団体とより積極的、組織的に連携体制が組めるようになった。講師派遣に関しては一部の学

科では行われているものの、第一線の技術者やビジネスマンに頻繁に講義を行ってもらうのは負担が大きい。専門技術教育の高度化には、実務卓越性の高い講師は必須である。

- 今後の改善策

- ・令和5年度から単位制へ移行している。カリキュラムを柔軟に運用し、企業が短期間で集中的に講師派遣できるような環境整備を進めたい。

また、生成AIのような技術の出現により、教育の役割の中でも知識の教授のような部分では、学校や教師の優位性は徐々に失われ、長期的には学習者主導の自律的な学びのスタイルが主流になって行くだろう。そのような大きな環境変化の中で本校は何を学生に提供できるか考えると、より課題型の学びへとシフトさせて行く必要があると思われる。教務レベルでリサーチを開始したい。

3.2 学校運営

項番	評価項目	評点
2.1	目的等に沿った運営方針が策定されているか	4
2.2	運営方針に沿った事業計画が策定されているか	3
2.3	運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか	3
2.4	人事、給与に関する規程等は整備されているか	4
2.5	教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか	4
2.6	コンプライアンス体制が整備されているか	3
2.7	教育活動等に関する情報公開が適切になされているか	4
2.8	情報システム化等による業務の効率化が図られているか	3

- 課題

- ・本学園の給与システムのサービス提供元ベンダーのサーバがランサムウェアに感染し、6月から約2か月間使用できなくなる事態が発生した。教職員の個人情報の漏洩も懸念されたが、いまのところ漏洩は発覚していない。

当件によるシステムの停止期間の給与業務に関しては、緊急対応として部分復旧したシステムにて一部の支給がひと月遅れとなることはあったが支給額のほぼ全額を期日通り支払うことができた。こんごは業務系システムでのシステム障害への対策が必要と認識された。

- ・実施された学校法人監査に対する千葉県からの指摘事項がR5年期首に通知された。これに対して対策を回答した。専門学校に関し指摘事項には県からの監査当日の総評の通り重大な問題となる指摘はなかったが、前回の学校法人監査の折の指摘の改善の

未完了の部分があった。

● 今後の改善策

- ・セキュリティインシデントも含めた情報システム、特に業務系のシステムについてのBCPの策定と定常的なバックアップの安全な取得を行う必要がある。また給与システムについては今後の別システムへの移行も検討する。
- ・学校法人監査の間隔が7年と長期に渡るために対応の監査結果のフォローが計画的になされなかった問題点に対応するために指摘事項への回答時にコミットした対応期間にそったレビューを計画する

3.3 教育活動

項番	評価項目	評点
3.1	教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	4
3.2	教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	3
3.3	学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	3
3.4	キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	3
3.5	関連分野の企業・関係施設等や業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	3
3.6	関連分野における実践的な職業教育（産学連携によるインターンシップ、実技・実習等）が体系的に位置づけられているか	3
3.7	授業評価の実施・評価体制はあるか	3
3.8	職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか	3
3.9	成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか	3
3.10	資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	4
3.11	人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	3
3.12	関連分野における業界等との連携において優れた教員（本務・兼務含む）を確保するなどマネジメントが行われているか	2
3.13	関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	3
3.14	職員の能力開発のための研修等が行われているか	4

● 課題

- ・長期インターンシップ等の企業連携による課題解決型学習も早期に実現したい。
- ・2023年4月より単位制に移行した。単位制の枠組みを有効活用し、より効果的なカリキュラムを編成する必要がある。
- ・教務と強調しつつ、教員研修を計画していたが、今期は特に指導的な立場の教員による内製化した研修が増え、受講者である教員の満足度も研修報告書や個別のヒヤリングにて高いことが確認できた。

● 今後の改善策

- ・生成AI等の新技術の台頭により、知的労働者に求められる能力も大きく変わっていくと思われる。資格の取得や要素技術教育の重要性は変わらないと考えられるが、前述した新技術を活用すれば個人でもハイレベルな学習が可能になりつつある。そのような中で本校の教育は、より課題解決型授業の比率を増やす必要があると考えられる。既存の卒業研究でのグループによるシステム開発を、企業や業界団体とのさらなる連携により、より実務的なレベルに引き上げる努力が求められる。
- ・既存の時間割の枠にとらわれず、単位制に移行したメリットを最大限に活用することで、一定期間に集中して行うプロジェクト型の授業を柔軟に採用し、企業が参画しやすい実施体制とするようなカリキュラム改革にも着手すべきである。
- ・単位制導入に伴い、従来の「必修」「必修選択」に加えて「任意選択」科目を導入した。
- ・教務と協調しつつ、職歴の浅い教職員の、早期の定着・安定稼働のため定期的に満度アンケートしつつ、導入研修の強化をおこなう。

3.4 学修成果

項番	評価項目	評点
4.1	就職率の向上が図られているか	4
4.2	資格取得率の向上が図られているか	4
4.3	退学率の低減が図られているか	3
4.4	卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	3
4.5	卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか。	3

● 課題

- ・資格取得に関しては、経済産業省所管IPA（情報処理推進機構）の実施する検定試験の最高位であるレベル4の合格者を、毎年安定して輩出できる体制が構築されている。これは全国的に見てもトップクラスの成績であり本校のコアコンピタンスであるので、今年度以降もこの状態を維持したい。

- ・ 学内実施説明会への申込み（Formsにて受付）や内容がわからなくなってしまう学生がおり、学内説明会・就職ガイダンスへの出席機会を失うケースが見受けられた。
- 今後の改善策
 - ・ 時代の要請を受けて、AWSのようなクラウド系の資格取得にもさらに注力する。
 - ・ リマインドメールが自動で送信されるよう申込用 Forms を変更。
 - ・ 教員講話時間を短縮し、個別対応で活動の支援にあたる時間を増強した。

3.5. 学生支援

項番	評価項目	評点
5.1	進路・就職に関する支援体制は整備されているか	4
5.2	学生相談に関する体制は整備されているか	2
5.3	学生に対する経済的な支援体制は整備されているか	4
5.4	学生の健康管理を担う組織体制はあるか	3
5.5	課外活動に対する支援体制は整備されているか	3
5.6	学生の生活環境への支援は行われているか	2
5.7	保護者と適切に連携しているか	2
5.8	卒業生への支援体制はあるか	4
5.9	社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	3

- 課題
 - ・ 高等教育の修学支援新制度は継続的に 20%近い学生の利用があり、奨学金制度と合わせて経済的に問題がある学生に継続的に利用できるよう指導を行い積極的に支援している。ただ制度開始以降、成績要件（下位 1/4 以上の成績）により支援が打ちきられる学生が微増している。
 - ・ 新型コロナウイルスの影響で止まっていた課外活動・保護者会の再開・拡充を進める。
 - ・ 企業ファイル内の求人票が古い場合がある
 - ・ 履歴書のデータ提出の増加、手書き作成の効率の悪さ
- 今後の改善策
 - ・ 学費を担当する職員と支援を受ける学生を担当する教員との連携を強化して支援を継続する。
 - ・ 保護者会、校外学習、球技大会、清掃活動といった学校行事を再開させた。これまで代替企画で行っていた学園祭についてはコロナ以前の形で再開し、学外からのお客様も参加可能とした。研修合宿については、全ての学科で再開することができた。
 - ・ 求人票ファイルの整理を年末に定例化

- ・必ず手書きで作成という指導を解除し、Word で作成した履歴書を印刷しての提出や Word ファイルからの PDF 化も推奨

3.6. 教育環境

項番	評価項目	評点
6.1	施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	4
6.2	学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	3
6.3	防災に対する体制は整備されているか	3

● 課題

- ・グローバル対応も急がれる。本校は I T 技術者育成カリキュラムを中核とする専門学校であるが、学生のほとんどが日本人であり、グローバル産業である I T の教育を日本語で行っている。地理的、歴史的な日本の特殊性を考慮すれば、必ずしも本校の落ち度とは言えないものの、この課題には正面から向き合う必要がある。
- ・近年の地震、台風による浸水などの災害に備える体制の点検と見直し。

● 今後の改善策

- ・グローバル対応に関しては、リモート教育を積極的に導入する方向性で、調査研究を開始する。
- ・帰宅困難の教職員と学生向けに、水、食料および簡易トイレを備蓄しているが、定期的に適量・消費期限等を点検したうえで備蓄を継続していく。

3.7. 学生の受入れ募集

項番	評価項目	評点
7.1	学生募集活動は、適正に行われているか	4
7.2	学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	4
7.3	学納金は妥当なものとなっているか	4

● 課題

- ・高等教育の修学支援新制度は返済の必要のない給付型で利用学生のメリットは大きく、20%近い利用実績があったが、対象者の枠の制限が広がる『新規拡充区分』として、『多子世帯に属してる』又は『私立理工系の学科等に在籍している』学生には年収の制限が緩和されることとなった。ただそれに伴い条件の複雑化が進み、事務作業の労力はさらに増している。実際の新制度の適用は R6 年度からとなるために、体制の整

備と準備作業をおこなった。また今後も同制度の見直し・拡充が行われる見通しである。学生募集活動、教育や就職成果の広報、納付金の妥当性等に関しては特に問題はない。

- 今後の改善策
 - ・奨学金制度の利用学生は 45%程度で学生の就学支援の重要な要素であり、その中でも返却の必要のない修学支援新制度は学生の利益が大きくなるので継続的に積極的に制度の利用を進めていく。そのため事務職員の全体での対応ができるように体制強化を進める。

3.8. 財務

項番	評価項目	評点
8.1	中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	4
8.2	予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	4
8.3	財務について会計監査が適正に行われているか	4
8.4	財務情報公開の体制整備はできているか	4

- 課題

特に大きな課題はない。
- 今後の改善策

公開を継続する。

3.9. 法令等の遵守

項番	評価項目	評点
9.1	法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	4
9.2	個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	4
9.3	自己評価の実施と問題点の改善を行っているか	4
9.4	自己評価結果を公開しているか	4

- 課題

特に課題はない。
- 今後の改善策

現状維持でよいと判断できる。

3.10. 社会貢献・地域貢献

項番	評価項目	評点
10.1	学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	4
10.2	学生のボランティア活動を奨励、支援しているか	3
10.3	地域に対する公開講座・教育訓練（公共職業訓練等を含む）の受託等を積極的に実施しているか	3

- 課題

新型コロナウイルスの影響で地域貢献活動、ボランティア活動を行えなかったが、船橋市の美化運動が復活し、約 250 名の学生が参加に手を挙げたが、令和 5 年度は雨天中止。令和 6 年度は 210 名が参加し地域のボランティアの方と協力して、駅周辺の美化活動を行った。更に多くの学生を参加させていきたい。

- 今後の改善策

保護者会、校外学習、球技大会、清掃活動といった学校行事、イベント、ボランティア活動を更に活性化を図っていく。

4.学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

学校関係者評価委員会では不適と評価された評価項目は無く、現状は全体を通して評価においては大きな問題はないと認識している。学校行事もコロナ禍前の水準に戻り活動ができるようになった。そのことは学生・その保護者に安心感を与え、信頼に繋がるとして評価されている。

従来通り、本校が専門学校の主な役割としている資格の取得と就職の支援において、本校は十分な結果を出していると自己評価できる。授業については単位制へ移行したことで、個々に合わせた学習からハイレベルな学習までの授業や企業連携の授業等に対応する柔軟なカリキュラム体制を整えた。今後はより課題解決型授業の比率を増やしていく課題など明確に見えてきた。新しい科目としては新技術である生成 AI に対する授業を開始したことについても評価したい。

今後も教育理念である「若者をハッピーに」に応えるために、技術力のみならず学生の人間力向上を重要な課題と認識し、より質の高い教育の提供を継続することを目指す。

以上